科目ナンバリング							
授業科目名<英訳>	心理学II Psychology II			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　大倉　得史		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

心理学の成り立ちと、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて、発達心理学や法心理学の観点から論じる。具体的には、「自分とは何か」という問いを導きの糸として、前半では青年期のアイデンティティ問題を、後半では主体性が危機に瀕する事例や刑事司法における供述分析の事例などを扱う。

[到達目標]

他者との関係性の中で「自己」「記憶」「事実」ができあがってくる様相を理解し、自分自身の成り立ちについて具体的に把握することができる。

[授業計画と内容]

１．青年期における自己の揺らぎ（第１～４回）
２．アイデンティティ拡散はどう収束するか（第５～８回）
３．スタンフォード監獄実験（第９～１０回）
４．甲山事件と生み出された物語（第１１～１４回）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートと授業中の小課題（レポート85%、小課題15%）。他者との関係性の中で自分自身が成り立っていることを理解できているかどうかを評価基準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
大倉得史 『拡散 diffusion ～「アイデンティティ」をめぐり、僕達は今～』（ミネルヴァ書房）
大倉得史 『「語り合い」のアイデンティティ心理学』（京都大学学術出版会）
浜田寿美男 『証言台の子どもたち：「甲山事件」園児供述の構造』（日本評論社）
村山満明・大倉得史（編著） 『尼崎事件　支配・服従の心理分析』（現代人文社）

[授業外学修（予習・復習）等]

上記の参考書等を読み、「自己」「記憶」「事実」とは何であるかを考えておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

教室定員を超える受講希望者が出た場合、第1回目の授業で抽選を行うので、必ず出席すること。
グループワークを多用するので、積極的に発言すること。